

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-339495

(43) 公開日 平成6年(1994)12月13日

(51) Int.Cl.⁵

A 6 1 F 13/02

識別記号

3 1 0 Z 7108-4C

庁内整理番号

3 4 0 7108-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平5-25927

(22) 出願日 平成5年(1993)1月22日

(71) 出願人 390011073

岩倉 泰一郎

香川県大川郡白鳥町白鳥66-1

(71) 出願人 592018364

タックシステム株式会社

愛媛県川之江市川之江町長須222番地の2

(72) 発明者 岩倉 泰一郎

香川県大川郡白鳥町白鳥66-1

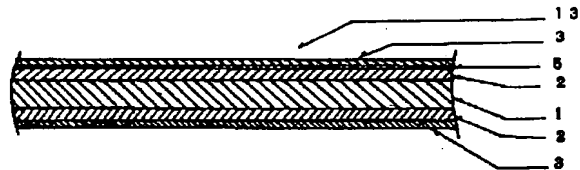
(74) 代理人 弁理士 佐々木 弘

(54) 【発明の名称】 医療補助用伸縮性テープ

(57) 【要約】

【目的】 腱鞘炎や皮膚創傷面或は疾患部に使用し、その回復の促進に寄与せんとするものである。

【構成】 伸縮性素材のテープを支持体とし、支持体を或一定の長さだけ伸張し、その両面に粘着層を形成すると共に、粘着層の片面には非接着処理面を設け、当該面と、他の一方の粘着層の表面とにセパレーターを施して支持体を伸張したまま固定し、皮膚面に貼付した後非接着面のセパレーターを剥離することにより支持体伸張の固定を解除可能にした構成を有する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 伸縮性を有するシート状素材を支持体となし、当該支持体を一定の長さだけ縦方向に伸張し、伸張した状態の支持体両面に、粘着基剤を塗布して粘着層を形成すると共に、片面の粘着層の表面には非接着処理を施して非接着処理面を形成し、当該処理面と他方の粘着層面とは共にセパレーターを施し、テープ全体が一定の長さだけ伸張した状態で構成された構造の医療補助用伸縮性テープ。

【請求項2】 前記請求項1記載の医療補助用伸縮テープにおいて、皮膚貼布面側の粘着基剤内に抗炎症剤など外皮用薬剤又は保湿剤などを含有させてなる医療補助用伸縮性テープ。

【請求項3】 粘着基剤が、水溶性高分子を主材とした水含有のハップ剤又は非水性の感圧性粘着基剤からなる前記請求項1記載の医療補助用伸縮性テープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は医療補助用伸縮性テープに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来この種テープは、図1に示すように、不織布等の支持体(1)に粘着基剤又は用途に応じて消毒剤などを含有させた粘着基剤を塗布して粘着層(2)を形成し、次いでセパレーター(3)を重ねた構造を有するもの、又図2に示すように不織布等の支持体(1)に粘着層(2)を形成し、次いで消毒剤その他の薬を塗布又は含有させた適宜大きさのガーゼ(6)を重ねておいた構造のテープなど提供されている。又図3に示すように、支持体(1)両面に粘着層(2)を形成し、片面の粘着層(2)にセパレーター(3)を施した両面接着テープも存在する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の医療用補助テープは、例えば皮膚面の創傷に使用する場合、創傷に薬を塗りその上にガーゼを置き、このガーゼをテープで止めるために使用するか、又粘着基剤と一緒に薬用ガーゼが構成されたテープでも要するに薬用ガーゼを創傷面に固定しておくのがその目的であり且つ効果であった。然るに創傷面はいわゆる皮膚面であるから動きによって伸縮し患部によっては皮膚面の伸びることが治療を妨げることもあり、又単に固定するのみでは自由な運動を妨げるだけで反って機能低下を来すので筋肉の伸び縮みを適度にコントロールする方が治療や予防に良い結果を来すこともある。そこで本発明は、伸縮性を有する素材のテープ自体を最初から或一定の長さだけ伸張しておきその縮む作用を利用して伸筋の屈伸作用を補助し患部の治癒力を向上させようとするものである。なお1~2の例を示して説明する。

【0004】例えば腱鞘炎であるが、腱は筋肉として骨

2

に付着している丈夫な繊維組織で、俗に“すじ”とも呼ばれている。関節がなめらかに動くには関節とともにこの腱も円滑に動かなくてはならない。腱の動きをスムーズにするため、腱はその外側をストローのような鞘で包まれており、この組織を“腱鞘”という。そしてここに炎症が起きることが「腱鞘炎」である。腱鞘は手や肩、足首など、関節のあるところに存在しているが、特に手に多いため腱鞘炎もまた起きることが圧倒的に多い。特に親指の関節は屈伸だけでなく内転や外転もでき、その構造は複雑である。そのため手首の背側にある“伸筋腱鞘”やつけ根の内側にある“屈筋腱鞘”の両方に腱鞘炎が起りやすい。腱鞘炎の症状として多いのは①指のつけ根の内側が腫れて押すと痛い。

②力を入れて曲げると痛い、③弾発現象、④曲げたまま伸びなくなる、伸ばしたまま曲げられなくなる等がある。腱鞘炎の原因はそのほとんどが関節の使い過ぎなど、機械的なストレスにある。その結果、腱や腱鞘に炎症が生じ腱鞘内の容積が狭くなって腱のすべりが悪くなり、摩擦による痛みが起こってくるのである。これを

「狭窄性腱鞘炎」と呼ぶ。機械的なストレスには大きく分けて①長期間同じ作業をする、②急に慣れない作業をするの二つがある。腱鞘炎の患者には家事労働で手を酷使する主婦や指をよく使う職業のキーバンチャーやピアノリストなどによく見られる。腱鞘炎の治療法には痛む部分を使わないようにして安静を保ち、入浴時にお湯の中で患部をゆっくりマッサージする温熱療法も回復を助ける。消炎鎮痛剤を内服したり塗布したりしても痛みがとれない場合は炎症を押えるための副腎皮質ステロイドホルモンを腱鞘の中にごく微量注射し、しばらく指の運動を避ける方法をとるが薬害が激しいうえに指を動かさないでいると、自然治癒力が弱まってしまう。症状が進むと整形外科で手術を受けねばならないことになる。腱鞘炎の従来の治療法では安静が第一であり消炎鎮痛剤の使用でも完治することが少なく症状も長期化する傾向にある。又重症の場合は手術が必要で痛みを伴い、且つ手を使う日常の作業に障害を来す時期が長期に及ぶ。そこで、この発明者は腱鞘炎の予防法の手段を研究するうちに次のことが効果的であることを発見した。つまり、長母指伸筋あるいは小指伸筋という筋肉の働きを助け、筋肉の伸び縮みを適度にコントロールすると痛みや、こわばりが取れ腱鞘の炎症が消失することを見い出した。そこで発明者は筋肉の伸び縮みを適度にコントロールするには伸縮性テープを指の筋肉にそって貼付し、伸筋の作用をテープ自体の縮む作用によって補助し、腱鞘炎を予防し且つ日常生活を続けながら自然治癒力を向上させる医療補助用伸縮性テープを提供するものなのである。

【0005】次に、例えば創傷など外傷性削皮創にあつては、患部が皮膚面の伸長や収縮によってその速やかな治癒が妨げられることが多いが、このような創傷面の広がる作用を押えて治癒力を促進するテープの提供をも目

3

的とし、更にはこのテープを女性の美顔の手段である「しわ伸ばし」テープとしても利用せんとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は以上のような課題を解決するため、織布又は不織布などの伸縮性を有するシート状素材を支持体となし、当該支持体を縦方向に一定の長さだけ伸張し、伸張した状態の支持体の両面に粘着基剤を塗布して粘着層を形成すると共に片面の粘着層の表面には非接着処理を施して非接着処理面を形成し、当該処理面と他方の粘着層面には共にセパレーターを施し、テープ全体が一定の長さだけ伸張された状態を呈し、貼付使用した時に収縮作用をなすように構成されたことを特徴とするものである。支持体は織布又は不織布等その材質を問うものではないが少なくとも縦方向即ちテープの長さ方向に伸縮性を有するシート状素材を使用する。支持体の伸張度は適度でよいが、20%以内が適当である。次に粘着基剤であるが、医療補助用テープに一般的に使用されている粘着剤は勿論のこと、当該テープの用途に応じて水溶性高分子を主体としたもの、又は非水性の感圧性粘着剤を使用してもよい。そして又粘着基剤の中に抗炎症剤、殺菌消毒剤、褥瘡治療剤、保湿剤等々外用薬剤を含有させたテープとして構成してもよい。このような薬剤を含有させることはこの種従来の医療補助用テープとしては一般的に行われてきたところであるが、本発明の特徴は、支持体を、伸縮性を有する素材となし、当該支持体を一定の長さだけ伸張してその両面に粘着基剤を塗布して粘着層を形成し、更にセパレーターで収縮を押え、即ち伸張した状態を固定しておき、使用時にその収縮性を治療効果向上に利用したことが本発明構成上の特徴とするところである。

【0007】

【実施例】図4及び図5は本発明医療補助用伸縮性テープの第1図実施例であるが、粘着基剤の中には抗炎症剤が混入された腱鞘炎予防及び治療用のテープとして粘着層(2)が構成されている。当該テープ即ち、伸縮性を有する支持体(1)を一定の長さだけ伸張し、伸張した状態でその両面に抗炎症剤を混入した粘着基剤を塗布して粘着層(2)(2)を形成し、片面の粘着層面に非接着処理を施して非接着処理面(5)を形成する。この非接着処理面(5)の上にセパレーター(4)を施して支持体(1)の収縮を止め支持体(1)を伸張した状態に固定する。次に他面の粘着層(2)の表面にもセパレーター(3)を施す。然るときは支持体(1)が伸張された状態の医療補助用伸縮性テープが構成される。当該テープを腱鞘炎の予防及び治療に使用するとき、図6に示すように、腱鞘炎の最も起こりやすい又は発症している親指(8)と小指(9)の各指に添って、セパレーター(3)を剥離して手甲側に貼付し、次いで反対面のセパレーター(4)を剥離する。この際非接着処理面

4

(5)が形成されているからセパレーター(4)の剥離は容易である。然るときは、支持体(1)即ち該テープ(13)全体が矢印(A)方向に収縮するように作用する。従って本発明のテープを貼付すると手の握りと開きの運動が支持体(1)の伸縮性とも相まって自然に補助されると共にトレーニングされることとなるから、腱鞘炎の予防は勿論のことその治療にも効を奏する。なお本実施例の場合、単なる予防用のテープとする場合は抗炎症剤を混入しない粘着層(2)のものを使用してもよい。

【0008】

【実施例】図7乃至図10は第2実施例で、創傷治療用の本発明テープ及びその作用を示すものであるが、支持体(1)の両面に粘着層(2)(2)を設け、片面の粘着層(2)上に滅菌済・消毒液付ガーゼ(6)が配置され、更に当該粘着層(2)と該ガーゼ(6)の上にセパレーター(3)が施され、他の粘着層(2)の表面は非接着処理がなされて非接着処理面(5)が形成され、その表面上に特に支持体(1)の伸張を固定する作用をなすセパレーター(4)が設けられている。

【0009】上記の実施例は創傷治療補助伸縮性テープであるが、これを使用するときは、セパレーター(3)を剥離し、滅菌済み消毒液付きガーゼ(6)を創傷患部(7)にあて貼付し、次いでセパレーター(4)を剥離すれば、非接着処理面(5)が形成されているからセパレーター(4)は容易に剥離し、且つ支持体(1)の伸張固定は解除され、支持体(1)は矢印(A')方向に収縮するので創傷面積が自ずと縮められ、又広げられるような力が作用しても縮められるように作用するから広げられるようなことはなく、従って創傷治療の促進効果が期待できる。

【0010】

【実施例】図11は実施例1の抗炎症剤を混入しない本発明テープの実施例で且つ用途の実施例であるが、目尻などの「しわ」をはさむようにしてテープを貼付しセパレーター(4)を剥離すると、テープは縦方向即ち矢印(A'')方向に収縮するから、「しわ」は引き伸ばされ美顔用としても効を奏する。なお、この際粘着基剤の中に保湿剤などを混合すると一層の効果が期待できる。

【0011】

【発明の効果】以上説明したように、本発明に係る医療補助用伸縮性テープは、支持体に伸縮性素材を使用し、この支持体を一定の長さまで伸張してその両面に粘着基剤又は当該基剤に薬効成分を混入した粘着剤を塗布して粘着層を形成し支持体を伸張した状態をセパレーターで保持した構成となし、人体皮膚面に貼付した際セパレーターを剥離して支持体を収縮可能としたので、支持体がもとの長さまで収縮する作用をすると共に支持体それ自体の伸縮性により筋肉の屈伸の補助・トレーニングに役立ち腱鞘炎の予防や治療に効を奏し、又創傷面積を縮め

5

て治癒の促進に効を奏する等数多くの用途があり又その効を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】この種従来テープの一例でその拡大断面説明図である。

【図2】従来の創傷治療補助テープの一例でその拡大断面説明図である。

【図3】従来の両面テープでその拡大断面説明図である。

【図4】本願発明に係る医療補助用伸縮性テープの平面説明図。

【図5】図4の拡大断面説明図である。

【図6】使用の実施例で腱鞘炎に使用した場合の説明図。

【図7】本願発明に係る創傷治療補助伸縮テープの実施例でその拡大断面説明図。

【図8】図7の平面説明図で、ガーゼ面のセパレーターを取り除いた状態を示す。

【図9】創傷患部を示す説明図。

【図10】創傷患部に図7に示す本願テープを貼付した状態を示す説明図で、創傷患部の面積が縮小しているこ

とを示す。

【図11】図4、図5に示す本願テープを顔のしわのぼしに使用した状態を示す説明図。

【符号の説明】

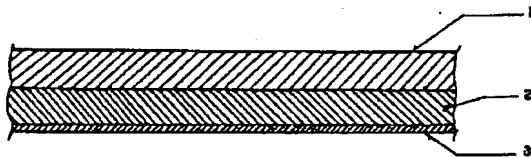
- 1 支持体
- 2 粘着層
- 3 セパレーター
- 4 セパレーター
- 5 非接着処理面
- 6 滅菌済・消毒液付ガーゼ
- 7 創傷患部
- 8 親指
- 9 小指
- 10 腕
- 11 顔面皮膚部
- 12 顔面のしわ
- 13 本発明テープ

矢印A 伸筋に作用する方向

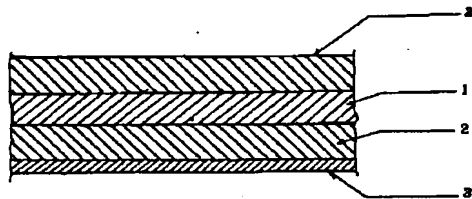
矢印A' 創傷面に作用する方向

矢印A" しわに作用する方向

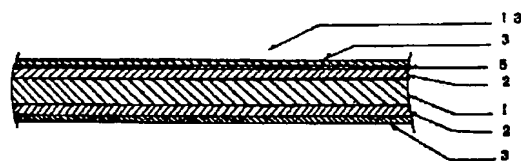
【図1】



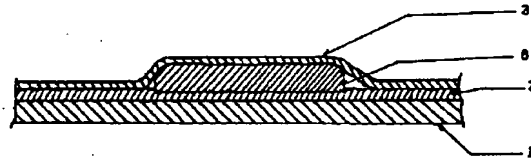
【図3】



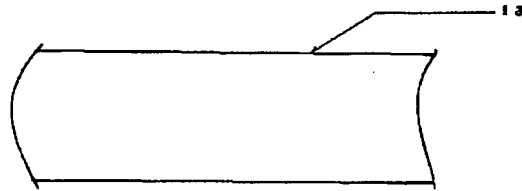
【図5】



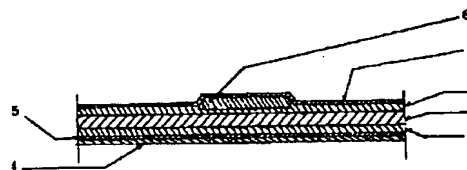
【図2】



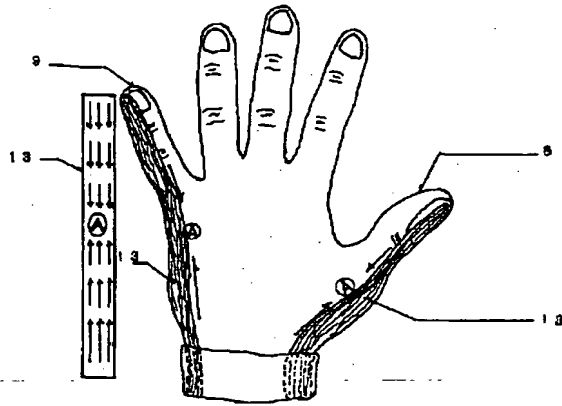
【図4】



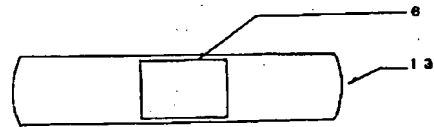
【図7】



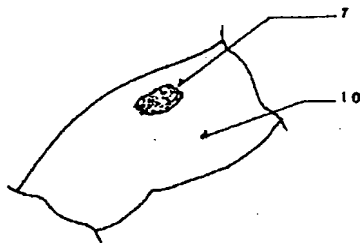
【図6】



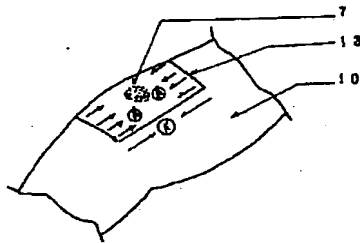
【図8】



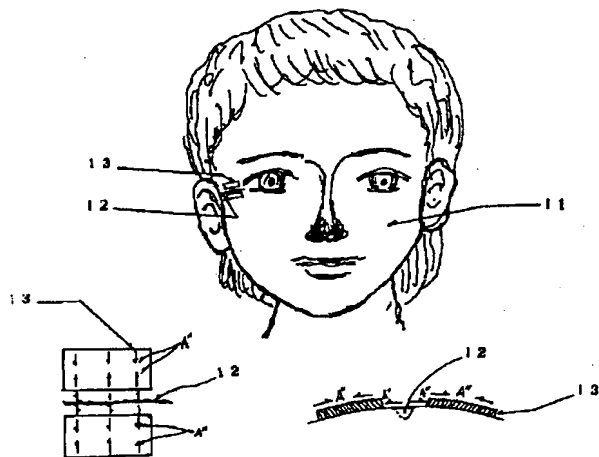
【図9】



【図10】



【図11】



【手続補正書】

【提出日】平成5年7月19日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】医療補助用伸縮性テープ

【特許請求の範囲】

【請求項1】伸縮性を有するシート状素材を支持体となし、当該支持体を一定の長さだけ縦方向に伸張し、伸張した状態の支持体両面に、粘着基剤を塗布して粘着層を形成すると共に、片面の粘着層の表面には非接着処理を施して非接着処理面を形成し、当該処理面と他方の粘着層面とは共にセパレーターを施し、テープ全体が一定の長さだけ伸張した状態で構成された構造の医療補助用伸縮性テープ。

【請求項2】前記請求項1記載の医療補助用伸縮テープにおいて、皮膚貼布面側の粘着基剤内に抗炎剤など外皮用薬剤又は保湿剤などを含有させてなる医療補助用伸縮性テープ。

【請求項3】粘着基剤が、水溶性高分子を主材とした水含有のハップ剤又は非水性の感圧性粘着基剤からなる前記請求項1記載の医療補助用伸縮性テープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は医療補助用伸縮性テープに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来この種テープは、図1に示すように、不織布等の支持体(1)に粘着基剤又は用途に応じて消毒剤などを含有させた粘着基剤を塗布して粘着層(2)を形成し、次いでセパレーター(3)を重ねた構造を有するもの、又図2に示すように不織布等の支持体(1)に粘着層(2)を形成し、次いで消毒剤その他の薬を塗布又は含有させた適宜大きさのガーゼ(6)を重ねておいた構造のテープなど提供されている。又図3に示すように、支持体(1)両面に粘着層(2)を形成し、片面の粘着層(2)にセパレーター(3)を施した両面接着テープも存在する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の医療用補助テープは、例えば皮膚面の創傷に使用する場合、創傷に薬を塗りその上にガーゼを置き、このガーゼをテープで止めるために使用するか、又粘着基剤と一緒に薬用ガーゼが構成されたテープでも要するに薬用ガーゼを創傷面に固定しておくのがその目的であり且つ効果であった。然るに創傷面はいわゆる皮膚面であるから動きによって伸縮し患部によっては皮膚面の伸びることが治療を妨げる

こともあり、又単に固定するのみでは自由な運動を妨げるだけで反って機能低下を来すので筋肉の伸び縮みを適度にコントロールする方が治療や予防に良い結果を来すこともある。そこで本発明は、伸縮性を有する素材のテープ自体を最初から或一定の長さだけ伸長しておきその縮む作用を利用して伸筋の屈伸作用を補助し患部の治癒力を向上させようとするものである。なお1～2の例を示して説明する。

【0004】例えば腱鞘炎であるが、腱は筋肉として骨に付着している丈夫な繊維組織で、俗に“すじ”とも呼ばれている。関節がなめらかに動くには関節とともにこの腱も円滑に動かなければならない。腱の動きをスムーズにするため、腱はその外側をストローのような鞘で包まれており、この組織を“腱鞘”という。そしてここに炎症が起きることが「腱鞘炎」である。腱鞘は手や肩、足首など、関節のあるところに存在しているが、特に手に多いため腱鞘炎もまた起きることが圧倒的に多い。特に親指の関節は屈伸だけでなく内転や外転もでき、その構造は複雑である。そのため手首の背側にある“伸筋腱鞘”やつけ根の内側にある“屈筋腱鞘”の両方に腱鞘炎が起りやすい。腱鞘炎の症状として多いのは①指のつけ根の内側が腫れて押すと痛い。

②力を入れて曲げると痛い、③弾発現象、④曲げたまま伸びなくなる、伸ばしたまま曲げられなくなる等がある。腱鞘炎の原因はそのほとんどが関節の使い過ぎなど、機械的なストレスにある。その結果、腱や腱鞘に炎症が生じ腱鞘内の容積が狭くなって腱のすべりが悪くなり、摩擦による痛みが起ってくるのである。これを「狭窄性腱鞘炎」と呼ぶ。機械的なストレスには大きく分けて①長期間同じ作業をする、②急に慣れない作業をするの二つがある。腱鞘炎の患者には家事労働で手を酷使する主婦や指をよく使う職業のキーバンチャーやピアノリストなどによく見られる。腱鞘炎の治療法には痛む部分を使わないようにして安静を保ち、入浴時にお湯の中で患部をゆっくりマッサージする温熱療法も回復を助ける。消炎鎮痛剤を内服したり塗布したりしても痛みがとれない場合は炎症を押えるための副腎皮質ステロイドホルモンを腱鞘の中にごく微量注射し、しばらく指の運動を避ける方法をとるが薬害が激しいうえに指を動かさないでいると、自然治癒力が弱まってしまう。症状が進むと整形外科で手術を受けねばならないことになる。腱鞘炎の従来の治療法では安静が第一であり消炎鎮痛剤の使用でも完治することが少なく症状も長期化する傾向にある。又重症の場合は手術が必要で痛みを伴い、且つ手を使う日常の作業に障害を来す時期が長期に及ぶ。そこで、この発明者は腱鞘炎の予防法の手段を研究するうちに次のことが効果的であることを発見した。つまり、長母指伸筋あるいは小指伸筋という筋肉の動きを助け、筋肉の伸び縮みを適度にコントロールすると痛みや、こわ

ばりが取れ腱鞘の炎症が消失することを見出した。そこで発明者は筋肉の伸び縮みを適度にコントロールするには伸縮性テープを指の筋肉にそって貼付し、伸筋の作用をテープ自体の縮む作用によって補助し、腱鞘炎を予防し且つ日常生活を続けながら自然治癒力を向上させる医療補助用伸縮性テープを提供するものなのである。

【0005】次に、例えば創傷など外傷性削皮創にあつては、患部が皮膚面の伸長や収縮によってその速やかな治癒が妨げられることが多いが、このような創傷面の広がる作用を押えて治癒力を促進するテープの提供をも目的とし、更にはこのテープを女性の美顔の手段である「しわ伸ばし」テープとしても利用せんとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は以上のような課題を解決するため、織布又は不織布などの伸縮性を有するシート状素材を支持体となし、当該支持体を縦方向に一定の長さだけ伸張し、伸張した状態の支持体の両面に粘着基剤を塗布して粘着層を形成すると共に片面の粘着層の表面には非接着処理を施して非接着処理面を形成し、当該処理面と他方の粘着層面には共にセパレーターを施し、テープ全体が一定の長さだけ伸張された状態を呈し、貼付使用した時に収縮作用をなすように構成されたことを特徴とするものである。支持体は織布又は不織布等その材質を問うものではないが少なくとも縦方向即ちテープの長さ方向に伸縮性を有するシート状素材を使用する。支持体の伸張度は適度でよいが、20%以内が適当である。次に粘着基剤であるが、医療補助用テープに一般的に使用されている粘着剤は勿論のこと、当該テープの用途に応じて水溶性高分子を主体としたもの、又は非水性の感圧性粘着剤を使用してもよい。そして又粘着基剤の中に抗炎症剤、殺菌消毒剤、褥瘡治療剤、保湿剤等々外用薬剤を含有させたテープとして構成してもよい。このような薬剤を含有させることはこの種従来の医療補助用テープとしては一般的に行われてきたところであるが、本発明の特徴は、支持体を、伸縮性を有する素材となし、当該支持体を一定の長さだけ伸張してその両面に粘着基剤を塗布して粘着層を形成し、更にセパレーターで収縮を押え、即ち伸張した状態を固定しておく、使用時にその収縮性を治療効果向上に利用したことが本発明構成上の特徴とするところである。

【0007】

【実施例】図4及び図5は本発明医療補助用伸縮性テープの第1図実施例であるが、粘着基剤の中には抗炎症剤が混入された腱鞘炎予防及び治療用のテープとして粘着層(2)が構成されている。当該テープ即ち、伸縮性を有する支持体(1)を一定の長さだけ伸張し、伸張した状態でその両面に抗炎症剤を混入した粘着基剤を塗布して粘着層(2)(2)を形成し、片面の粘着層面に非接着処理を施して非接着処理面(5)を形成する。この非

接着処理面(5)の上にセパレーター(4)を施して支持体(1)の収縮を止め支持体(1)を伸張した状態に固定する。次に他面の粘着層(2)の表面にもセパレーター(3)を施す。然るときは支持体(1)が伸張された状態の医療補助用伸縮性テープが構成される。当該テープを腱鞘炎の予防及び治療に使用するとき、図6に示すように、腱鞘炎の最も起こりやすい又は発症している親指(8)と小指(9)の各指に添って、セパレーター(3)を剥離して手甲側に貼付し、次いで反対面のセパレーター(4)を剥離する。この際非接着処理面(5)が形成されているからセパレーター(4)の剥離は容易である。然るときは、支持体(1)即ち該テープ(13)全体が矢印(A)方向に収縮するように作用する。従って本発明のテープを貼付すると手の握りと開きの運動が支持体(1)の伸縮性とも相まって自然に補助されると共にトレーニングされることとなるから、腱鞘炎の予防は勿論のことその治療にも効を奏する。なお本実施例の場合、単なる予防用のテープとする場合は抗炎症剤を混入しない粘着層(2)のものを使用してもよい。

【0008】

【実施例】図7乃至図10は第2実施例で、創傷治療用の本発明テープ及びその作用を示すものであるが、支持体(1)の両面に粘着層(2)(2)を設け、片面の粘着層(2)上に滅菌済・消毒液付ガーゼ(6)が配置され、更に当該粘着層(2)と該ガーゼ(6)の上にセパレーター(3)が施され、他の粘着層(2)の表面は非接着処理がなされて非接着処理面(5)が形成され、その表面上に特に支持体(1)の伸張を固定する作用をなすセパレーター(4)が設けられている。

【0009】上記の実施例は創傷治療補助伸縮性テープであるが、これを使用するとき、セパレーター(3)を剥離し、滅菌済み消毒液付きガーゼ(6)を創傷患部(7)にあて貼付し、次いでセパレーター(4)を剥離すれば、非接着処理面(5)が形成されているからセパレーター(4)は容易に剥離し、且つ支持体(1)の伸張固定は解除され、支持体(1)は矢印(A')方向に収縮するので創傷面積が自ずと縮められ、又広げられるような力が作用しても縮められるように作用するから広げられるようなことはなく、従って創傷治療の促進効果が期待できる。

【0010】

【実施例】図11は実施例1の抗炎症剤を混入しない本発明テープの実施例で且つ用途の実施例であるが、目尻などの「しわ」をはさむようにしてテープを貼付しセパレーター(4)を剥離すると、テープは縦方向即ち矢印(A~)方向に収縮するから、「しわ」は引き伸ばされ美顔用としても効を奏する。なお、この際粘着基剤の中に保湿剤などを混合すると一層の効果が期待できる。

【0011】

【発明の効果】以上説明したように、本発明に係る医療補助用伸縮性テープは、支持体に伸縮性素材を使用し、この支持体を一定の長さまで伸張してその両面に粘着基剤又は当該基剤に薬効成分を混入した粘着剤を塗布して粘着層を形成し支持体を伸張した状態をセパレーターで保持した構成となし、人体皮膚面に貼付した際セパレーターを剥離して支持体を収縮可能としたので、支持体がもとの長さまで収縮する作用をすると共に支持体それ自体の伸縮性により筋肉の屈伸の補助・トレーニングに役立ち腱鞘炎の予防や治療に効を奏し、又創傷面積を縮めて治癒の促進に効を奏する等数多くの用途があり又その効を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】この種従来テープの一例でその拡大断面説明図である。

【図2】従来の創傷治療補助テープの一例でその拡大断面説明図である。

【図3】従来の両面テープでその拡大断面説明図である。

【図4】本願発明に係る医療補助用伸縮性テープの平面説明図。

【図5】図4の拡大断面説明図である。

【図6】使用の実施例で腱鞘炎に使用した場合の説明図。

【図7】本願発明に係る創傷治療補助伸縮テープの実施例でその拡大断面説明図。

【図8】図7の平面説明図で、ガーゼ面のセパレーターを取り除いた状態を示す。

【図9】創傷患部を示す説明図。

【図10】創傷患部に図7に示す本願テープを貼付した状態を示す説明図で、創傷患部の面積が縮小していることを示す。

【図11】図4、図5に示す本願テープを顔のしわのばしに使用した状態を示す説明図。

【符号の説明】

- 1 支持体
- 2 粘着層
- 3 セパレーター
- 4 セパレーター
- 5 非接着処理面
- 6 滅菌済・消毒液付ガーゼ
- 7 創傷患部
- 8 親指
- 9 小指
- 10 腕
- 11 顔面皮膚部
- 12 顔面のしわ
- 13 本発明テープ

矢印A 伸筋に作用する方向

矢印A' 創傷面に作用する方向

矢印A'' しわに作用する方向